

野球部部員 東日本大震災被災地でボランティア活動



2月4日（土）、野球部部員 25名が、東日本大震災被災地（南三陸町）でボランティア活動をしてきました。一行は、顧問教諭 2名引率のもと、2月3日深夜発のバスで本校を出発し、一路、南三陸町を目指しました。現地では、石を袋に詰める作業（カキ養殖のための土嚢づくり）など、漁師さんたちのお手伝いをしてきました。

部員たちは、一人一人が言葉では言い尽くせないほど、いろいろなことを感じとって帰ってきたようです。以下、参加者の感想を一部ご紹介します。

○震災から約1年経ち、復興しているのかと思っていましたが、東北の今の姿を自分の目で見て、とてもショックを受けました。復興まではほど遠く、周りを見回しても荒れ地ばかりで、鉄柱だけのアパートや家の上に乗ったままの車を見たときは本当に驚きました。自分たちは復興の手助けはほんの小さなことしかできないけれど、全力で取り組んでいきたいと思います。また、今回の活動で見てきたことを少しでも多く周りの人たちに伝えて、もう一度全員で今の現状について考え行動していきたいです。そして自分が今こうやって生きていること、野球をやっていることに感謝し、今できることに一生懸命取り組んでいきたいです。

○まず最初に宮城に行って驚いたのは、災害から1年近くも経つのにまだ全然町が復興していなくて、屋上に車は乗ったままだし、瓦礫の山もたくさんあったことでした。まだ全然普通の暮らしができる状態ではなく、自分がいかに恵まれた環境にいるのかと改めて思いました。今回のボランティアを体験してみて、自分をもっと1日1日を無駄にせず、東北の人たちのためにも毎日を一生懸命生活していきたいと思いました。



○今回は貴重な体験をありがとうございました。現場に行ってみて初めに思ったことは、「本当にここは自分たちの住んでいるところと同じ国、日本なのか。」ということでした。テレビでみていた感じと、実際に来てみたのでは全然印象が違いました。自分がいかにこのことを「他人事」として感じていたのかを実感させられました。毎日を普通に過ごしていられることが、実



は本当に幸せなことであって、毎日を何となく過ごしてしまっている自分が本当に情けないと思いました。「自分ができることを全力でする」忘れがちな一番大切なことを改めて思い出すことができた体験でした。この体験を周りの人に話したり、東北産の物を買ったりと、できることからコツコツやっていきたいと思いました。進んで人のためになることができる、人間力の高い人になりたいと思う。この体験を無駄にせず、部活、勉強に一生懸命に頑張りたいと思う。

○テレビの映像ではなく、実際に被災地の状況を目の当たりにして強く感じたことは、「復興への願い」と、「当たり前のことが当たり前にできることの幸せ」です。また、現地でボランティア活動をして、復興の苦勞を身にしみて感じました。自分たちが筋肉痛になるくらいまで作業して作ったおもりを、あと



5万個もつくと聞いたときは、驚きとあきらめを感じました。それでも漁師さんたちは明るく振る舞ってカキ汁まで作ってくれました。大変な状況の中で自分のことで精一杯だと思うのに、ボランティアの人たちに気遣いをされていてとても感激し、敬意の念を抱きました。そんな南三陸町の人や他の被災された方々のためにも、自分たちが今の状況をできるだけ多くの人に語り、まだまだボランティアが必要なこと、もっと被災地のためにできることを考えるべきだということを伝えていくべきだと思いました。メディアでの報道が減少してきている今、現地に行った自分たちが少しでも復興につながるよう動いていきたいと思っています。本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。また参加したいです。